第１回トークライブ@松江より

報告：羽田昭彦氏（北高 27 期）

出逢いは（たぶん）一昨年の東京双松会でした。
彼女から渡された名刺を見ると、「遣島使　銀座くらぶのん　山﨑寿子（寿々子)」とあります。「クラブのママさんですか？」と聞いた覚えがありますが、確かではありません。でも、Nice！ と心の中で叫んだことだけは覚えています。だって、花のお江戸は“ザギン”のママですぜ。
山﨑さんとはそれきりでしたが、ぼくの方は、昨年 4 月から松江観光協会で観光プロデューサーなる仕事を始めました。
ある時、新聞社の松江支局長からノンフィクション作家（女性）の講演会に招かれました。彼女とは前の職場で何度かやりとりをしたことがあったので、ホイホイと出かけたんですが、彼女は 2 時間ほど講演すると、さっさと日帰りで東京に帰っていきました。
興味本位で松江支局長から彼女の講演料を聞いて、まずびっくり。彼女のその月の公演回数は 4 回にも及ぶと聞いて 2 度びっくり。ひとり机（いまは PC かな）に向かって原稿を書くのが、バカらしくなるような金額です。
「講演は交流にあらず」ってことなんでしょうか。でも、これって何か間違ってる。地元の人がもっと気軽に参加でき、もっと濃密に中央の俊英と交わえるやり方はないか。
少し遠回りをしましたが、それが山﨑ママを松江に呼んだ理由です。自分の限られた人脈を総動員し、松江と交流してもらう。それを観光プロデューサーの仕事としようと考えたのです。
まず、企画名を「くるま座」としました。ゲストが参加者に向かって一方的にしゃべるのではなくて、ゲストと“車座”になって語り合う場所にしたい、という思いからです。ゲストスピーカーは、比較的すんなりと 10 名を超える方々が応諾してくれました。「ギャラはいくら？」と、たぶん聞いてこない人に声をかけました（笑)。なかには、橋本大二郎さんや吉永みち子さんなど中高年にはお馴染みの名前もあります。そして会場は殿町の今井書店。川津校舎出身者にとって、聖地だった場所です（ぼくだけですか？)。
さて第一回はどなたにお願いしようと考えていたときに、ふと山﨑ママの名前が浮かんできました。思い切って電話をかけてみると、偶然、3 月下旬の 3 連休に、お店の女の子と常連さんの 4 人で松江旅行を計画しているとのこと。新型コロナウィルスの拡散にやきもきしながらも、3 月 20 日、なんとか本番にこぎつけることができました。
当日、今井書店 2 階の狭いスペースに 50 人以上がぎゅうぎゅう詰め。予想を超える盛況でしたが、う

ち 6 割 7 割はママ関係の方。ママご本人はもとより、市役所にお勤めのお姉さまや彩雲堂の山口周平社長など、北高の同級・同窓生が集客に協力くださいました。

山﨑ママは 1993 年北高普通科卒の第 44 期。3 年時の担任は元北高校長の泉雄二郎さん（現島根大教授）だったとか。島根大学教育学部に進学しますが、卒業後はすぐに上京。歌手や舞台活動をする傍ら、25 歳のときに銀座デビューします。話は、なぜ水商売の世界に飛び込んだかというあたりから始まりますが、やがて夜の銀座のシステムやしきたりに。山﨑さんがママをつとめる「くらぶのん」は 43 年の歴史を持つ老舗ですが、この店で 12 年がんばってきた誇りが、話の随所から感じられます。

「銀座の女の子はだいたい 1、2 年でお店を変わります。店に入ると、まずはお姉さんのヘルプをします。やがてお客さんがついて売り上げを伸ばしても、ヘルプのままだと、売り上げは全部お姉さんのものになるからです」

などという話は、耳にしたことがあっても、現役ママの口から語られると、なかなかの迫力です。会場は笑い声や驚きの声で包まれます。このトークライブのなかで、じつはぼくがちょっとエゲツナイ質問をぶつけたりしています。興味のある方は地元の山陰ケーブルテレビ（Mable）で近く放送されますので、ご覧ください。

放送日は次のとおりです。

4 月 25 日（土）19：30～　23：30～

4 月 26 日（日）11：30～　15：30～　23：30～

4 月 27 日（月）7：30～　11：30～　15：30～

最後に残念な情報を。

原稿を書きながらたまたま山﨑ママの facebook をのぞいたら、3 月 30 日（月曜日）から「くらぶのん」を休業する、とのメッセージが掲載されていました。新型コロナウィルスの影響は銀座にも忍び寄ったようです。　1 日も早い再開を、願ってやみません。